



県内の児童や県民によって作られた折り鶴を贈呈



沖縄平和賞選考委員会の猪口邦子委員（上智大学教授）による祝辞



稲嶺知事から賞状を手渡される菅波理事長



記念レセプションでの様子



県出身のソプラノ歌手・宮良多鶴子さんらによる平和祈念コンサート

### 選考方法

国内外の有識者等に受賞候補者を推薦していただき、沖縄平和賞委員会の下に設置する「沖縄平和賞選考委員会」の選考を経て、受賞者を決定します。



沖縄平和賞委員会が推薦をお願いした方のみが受賞候補者を推薦する資格があり、そこから推薦された候補者が審査・選考の対象となります。選考は、沖縄平和賞委員会の下に設置する「沖縄平和賞選考委員会」において厳正かつ公正に行われます。



授賞式で、稲嶺知事から AMDA の菅波理事長らに賞状等が贈られた

## 特集 1

### 第2回沖縄平和賞

# 特定非営利活動法人AMDAに贈賞



沖縄と地理的・歴史的に関わりの深い、アジア・太平洋地域の平和の構築・維持に貢献した個人または団体を顕彰するために創設された沖縄平和賞。

第2回沖縄平和賞を特定非営利活動法人アムダ（AMDA）（本部：岡山県）に贈賞しました。

AMDAは、敵対している紛争当事者双方に対して、中立的な立場により医療支援を実施し、和平プロセスに寄与する「医療和平」を提唱。多様性の共存を目標に、困ったときはお互いさまの「相互扶助」精神に基づく人道支援を世界各地で行ってきました。

去る十月二十二日、名護市の万国津梁館で第二回沖縄平和賞授賞式を行いました。式には、県内外から多くの招待客が出席しました。AMDAの菅波理事長に、稲嶺知事から賞状と賞牌、副賞として一千万円を贈り、今後の協力を確認しました。

また、沖縄尚学高等学校付属中学の照屋全宝さんにより、「白南風吹くころ」という平和のメッセージが詠まれたほか、児童・生徒からAMDAに折り鶴が贈呈されました。

授賞式終了後、受賞者講演会を行い、「Sogofujio Spir itの世界」との演題の下、菅波理事長から国際人道支援活動を行うに至った経緯や、世界各地で活動する中で沖縄県系人との出会い、そして血縁共同体としての沖縄県系人ネットワークの強さ等が語られました。

本県は、沖縄平和賞を通して、平和を希求する「沖縄の心」を発信するとともに、平和の構築・維持に貢献する活動を支援することにより、「沖縄」が、アジア・太平洋地域の平和交流拠点となることを目指しています。

今後とも本賞を継続し、世界の恒久平和創造に貢献できるよう取り組んでいきます。

## 平和賞受賞について どう受け止めているか

不条理という言葉につきる歴史と現状にある沖縄から贈られた賞であり、有り難いと思う反面、重たいものを感じている。私は、「不条理」の反対は「尊厳」であり、尊厳とは選択肢があることだと考えている。米軍キャンプが沖縄に存在することは、沖縄の人達の意思からみて自らの選択肢なのかどうか。不条理の状況にあって選択肢がない沖縄は弱者であるが、弱者の強みは弱者の痛みがわかるということ。世界中の弱者のために、弱者である沖縄が動くことに沖縄平和賞の重みがあると感じている。

また、今回の受賞で、AMDAは、世界平和に向けて沖縄と一緒に歩んでいく、パートナーシップの資格をいただいたと思っており、非常に有り難く思っている。

## AMDAの支援活動のモットー

「必要とされればどこへでも行く。助かる命があればどこへでも行く」というのがAMDAのモットーであるが、必要によっては、とてつもない無理をすることもある。

そのようなことをしてまで支援活動をする理由は、私たちがパートナーシップ、つまり苦勞を共にするという人間関係を一番重視している

遍性のあることがはっきりわかった。

第二に、私たちは第二次世界大戦は済んだことと思っているが、まだまだその影響は残っているということである。

さらに第三点目を挙げるとすれば、これを契機に、AMDAが日本で唯一の救援機を飛ばせるNGOに育っていったということ。

サハリンでの救援以降、救援機を飛ばし続けた結果、岡山県もAMDAと一緒に国際貢献をすべく、国際貢献推進条例を制定した。また、岡山空港から物資を現地に運ぶため、物資を直接持ってきてくれる県民の方が多数おり、県民運動としての広がりが出てきた。

## AMDAが国際的に 高い評価を受けている理由

国際社会では、説明のない親切をしてはいけない。世界のNGOのホームページを見ればわかるが、私たちは何故・何を・誰のために・どういう方法でしたいという「ミッション・ステートメント」が明確に記載されており、有言実行の世界である。

日本のNGOで、ミッション・ステートメントが明確なのは、AMDAなど少数である。

日本のNGOは、「不言実行をもつて徳とする」の精神で世界で活躍しているが、救援を受ける人々は、

## 「助かる命があれば、どこへでも行きます」

インタビュー  
菅波茂・AMDA理事長



からである。苦勞を共にすることで自分にはないものを相手に発見したときに尊敬の念が、また、どんなに苦勞をしても決して相手が逃げないことがわかったときに信頼関係が生まれる。この人間関係を得るために、パートナーシップ、苦勞を共にしないといけない。そして、尊敬と信頼という人間関係ができたとき初めて、ものの方・考え方の違う人と一緒に活動ができる。つまり、私たちAMDAが一番の目標としている「多様性の共存」につながる。

## 一番印象に残っている 支援活動

一九九五年五月のサハリン大地震の救援活動のこと。サハリンへの着陸許可を持つ飛行

「啓典の民」が多い。預言者の言ったことを信仰している人達であるから、メッセージがないことは信用しない。そういう有言実行の世界で、日本人は不言実行の支援をするから気持ち悪がられる。AMDAが国際社会で受け入れられている理由は、有言実行のコンセプト、ミッションステートメントの明確さであると思う。

## AMDA沖縄県支部

沖縄県支部設立のきっかけは、一九九五年、インドでボランティア活動をしていた大仲医師との出会いにある。大仲医師の病院には盲人間の案内があり、一九九〇年代、私自身このような案内を見たのは初めてであった。それで、是非ともAMDA



右側は大仲AMDA沖縄県支部長。ザ・プゼナテラス（名護市）にて

知事外交サミットの提唱  
知事外交の時代が来ており、これに成功している県は、沖縄県（平和行政）、広島県（原爆行政）、岡山県（国際貢献行政）、兵庫県（防災行政）の四県。そのうち、平和賞まで設立しているのは沖縄県だけであり、先陣を切っていると言える。自らも弱者であり、その痛みがわかる沖縄県民の代表である知事が知事外交を提唱することに価値があると思う。

## 沖縄イニシアチブ・世界平和・ 三位一体構想の提出

の活動に参加してほしいと働きかけた。これまで、人材派遣のほかにインド大地震の際に毛布二百八十枚の提供を受けた。

沖縄県系人ネットワークを  
利用した緊急支援組織の設立  
沖縄県の人は、日本で唯一の血縁共同体であり、その移民は、AMDAのテーマである多様性の共存に成功した人々である。日本の公共財産という考え方をした方がよい。

日本政府の活動資金とAMDAのネットワークに沖縄の血縁共同体社会の三者を組み合わせ、中南米に大災害が生じたときに、現地の救援のために速やかに動くような、沖縄発の世界平和に寄与する組織づくり

機を見つめる必要があったが、偶然日本からの第一回慰霊団のコミュニティー機が手に入り、救援チームは現地入りした。しかし、「ロシアには医師も看護婦もたくさんいるから、帰ってくれ」と言われた。

この年の一月には阪神大震災があり、ロシアからも救援を受けていたため、AMDAのメンバーが、阪神大震災のときにロシアから支援してもらった被災者はとても喜んでおり、今度はロシアが悲惨な状況にあるから、現地では何の援助が必要なのかという調査も兼ねてAMDAが救援活動に来たことを伝えたところ、役人は納得し、救援チームを被災地までヘリコプターで運んでくれた。

また、現地で通訳をお願いした日本人は、「今回の大地震でAMDAが大量に物資を運んでくれたことがテレビでサハリン中に放映された。サハリンでは、戦後ずっと一等市民がロシア人、二等市民が朝鮮人、三等市民が日本人だったが、戦後初めて、私たち日本人は胸を張って歩ける」と語った。

このときわかったことは、第一に、説明のない親切は、相手に警戒感と不安感を与えるということ。

私たちがロシアで役人に対して説明したのは、困ったときはお互いさまという相互扶助の精神であり、サハリンでの経験から、この精神に普

をしたい。

世界平和青少年育成奨学金の設立  
沖縄の戦争体験を風化させないためにも、戦争、災害、貧困に苦しむ現場に若者を派遣して育成するために、返済を前提とした奨学金を設立してはどうか。現場は全世界で展開しているAMDAが支援できる。

## AMDAの今後

来年の六月一日に、国際連合の経済社会理事会で、最上位にあたりアジアエンダ（議題）提出ができるジェネラルの協議資格を取得する準備を進めている。今後、ニューヨークやジュネーブにAMDAの事務所を置き、積極的に国連に働きかけていく国連外交をしたい。

人道支援に関して、欧米は宗教的バックグラウンドからミッション（使命）という非常にわかりやすいメッセージが伝わるが、アジアにはこれがない。国連では、まず、何のために人道支援するのかということを明確にしたい。そのため、相互扶助、沖縄でいうところの結（ユイ）の世界について、国連で発言することによって、欧米と相互理解を組み立てたいと考えている。

そして、具体的なプロジェクトを通じて、相互扶助の世界の中でも特に血縁共同体社会が、国際社会でどのような役割を果たせるのかについて示していきたいと考えている。



## ～第1回沖縄平和賞受賞～ 「中村哲を支援するペシャワール会」のその後

第1回沖縄平和賞の賞金の一部を使って、アフガニスタン北東部の山岳地帯に「オキナワ・ピース・クリニック」が建設されました。平成15年9月には開所式が行われ、10月から診療が行われています。標高1500メートル以上の高地に住む約10万人をカバーし、毎月約3,000人の患者を診療しています。

〔オキナワ・ピース・クリニックの概要〕  
構造：石造り平屋、面積：2,500m<sup>2</sup>  
設備：診察室、検査室、救急処置室、スタッフ宿泊施設  
スタッフ：医師、看護師、検査技師等（計10人）



第1回沖縄平和賞の賞金などをもとに建設された「オキナワ・ピース・クリニック」



右から2番目が中村医師

写真提供 ペシャワール会

## 平和の折り鶴キャンペーン

今年7月から9月の間、県内小中学校の児童・生徒や県民等を対象に、第2回沖縄平和賞授賞式に向けて「平和の折り鶴キャンペーン」実施し、折り鶴を折って



平和を願い、たくさんの鶴が折られた

もらいました。折り鶴は、当初目標数の10万羽を越え、最終的に10万7,818羽に達しました。ご協力いただいた多くの方々に、厚くお礼を申し上げます。

## 皆様からの支援募金が平和の創造に役立っています

皆様からの募金は、「沖縄平和賞支援募金」として、沖縄平和賞の賞金や授賞式又は関連事業の財源に充てることとしています。募金開始以来多くのご協力をいただいています。引き続き、支援募金のご協力をお願い致します。

### 沖縄平和賞委員会

〒900-0021 那覇市泉崎1丁目2番2号  
県平和推進課内「沖縄平和賞委員会事務局」  
TEL.098-866-2500 FAX.098-866-2589  
<http://www.pref.okinawajp/heiwasuishin/>

### お問い合わせ

県平和推進課 TEL 098-866-2500 FAX 098-866-2589

## 花の平和交流事業

平和を希求する「沖縄の心」を海外で発信するため、平成15年11月20日から24日の間、内戦からの復興に努めるカンボジア王国で植樹祭等を行いました。

稲嶺知事をはじめ約150人が参加したこの旅では、県花であるデイゴのほか、イペーやトックリキワタ等を植樹して、カンボジアの人々と平和を希求する心を共有、同国と交流を深めました。



記念植樹やカンボジア国民との交流を深めたほか、カンボジア語、日本語、英語の3カ国語で記された記念碑が建立された



# AMDAはこんな活動をしています

## AMDAとは？

アジア、アフリカ、中南米において、戦争・自然災害・貧困等により社会的・経済的に恵まれず、社会から取り残されている人々への保健医療支援と生活状態改善のため、国際人道支援活動を展開するNGO国際医療ボランティア組織です。

国内外に31の支部（海外28、国内3）を持ち、現在14カ国で事業を展開しています。

なお、日本国内には、沖縄県（沖縄セントラル病院内）のほか、神奈川県、兵庫県に支部があります。

## 活動内容は？

### (1) 緊急救援活動（短期的活動）

AMDA各国支部と共同で編成するAMDA多国籍医師団が、自然災害や戦争による被災者に対し医療救援・救援物資の配布を実施しています。

〔主な活動実績〕

- イラク国内クルド難民支援（1991年）
- サハラ内地震被災者支援（1995年）
- コンボ難民支援（1999年）
- イラク復興支援（2003年）

### (2) 地域医療・地域開発活動（中長期的活動）

貧困等により社会から取り残されている人々に必要とされる保健医療・教育・生活環境向上の支援を実施しています。



写真提供：AMDA

設立 1984年8月  
所在地 岡山市櫛津310-1  
連絡先 TEL.086-284-7730  
FAX.086-284-8959  
理事長 菅波 茂  
ホームページ <http://www.amda.or.jp>

## AMDAの主な活動実績

